

【樹木の部屋】

アベリア (スイカズラ科ツクバネウツギ属 *Abelia* × *grandiflora*)

和名：ハナツクバネウツギ(花衝羽根空木)

別名：ハナゾノツクバネウツギ(花園衝羽根空木)、ツクバネウツギ(衝羽根空木)

英名：Glossy abelia

マツムシソウ目 常緑低木

原産地：園芸品種

花言葉：優美、強運、謙譲

花色：白、桃



← 写真-1 アベリア

撮影日：2020年04月25日

撮影場所：奈良市平城3号公園にて

撮影者：Mさん

↘ 写真-2 アベリアの徒長枝

撮影日：2020年04月25日

撮影場所：奈良市平城3号公園にて

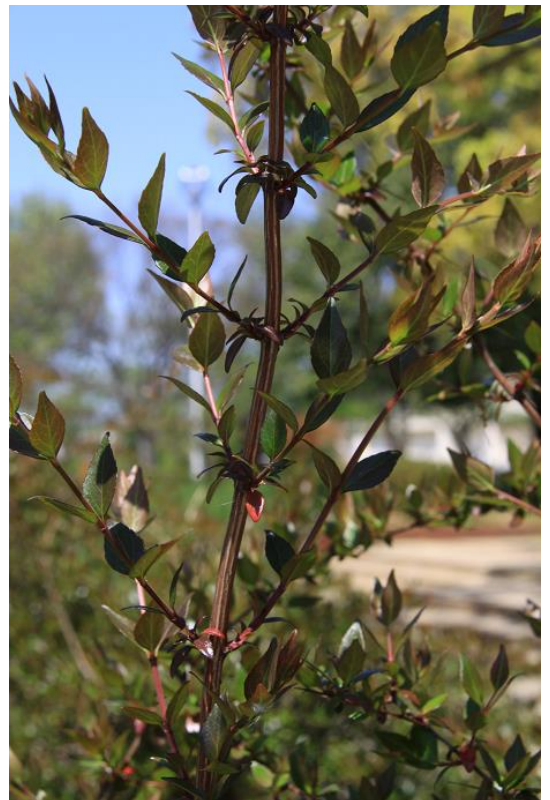
撮影者：Mさん

↓ 写真-3 アベリアの小葉

撮影日：2020年04月25日

撮影場所：奈良市平城3号公園にて

撮影者：Mさん





←写真-4、5 アベリアの花
 撮影日：2020年06月16日
 撮影場所：奈良市郊外にて
 撮影者：M さん

アベリア (*Abelia*) とは、スイカズラ科ツクバネウツギ属 (*Abelia*) に属する植物の総称、またはツクバネウツギ属の交配種のアベリア (*Abelia* × *grandiflora*) を指します。この植物は、中国原産のアベリア・キネンシス種 (*Abelia chinensis* : タイワンツクバネウツギの母種) とアベリア・ユニフローラ種 (*Abelia uniflora*) の交配によって作出された園芸品種だそうです。

アベリアの仲間は、東アジア、メキシコなどに約 20 種が分布し、日本にも 4 種が自生しているそうです。

樹高 2 メートルほどの低木で 5 月中旬～10 月にかけての長い間、枝先に釣鐘状の白や淡いピンク色の小さな花を多数咲かせ、花には甘い香りもあります。萼は基部まで 2～5 裂します。暖地では常緑ですが、寒地では落葉します。

アベリアは刈り込みにも強いので、公園や道路沿いに数多く植栽されています。庭木としての利用はまだ少ないようですが、コンパクトで好みの大きさに剪定することができるうえに、花が美しいのはもちろん、葉は濃い緑色のものや、白や黄色の斑入りのものもあり観賞価値の高い園芸品種だそうです。

別名のツクバネウツギは漢字では「衝羽根空木」と書きますが、これはウツギに似た姿で、プロペラのように広がる 5 枚の萼が花後も残り、羽根つきの羽根のように見えることに由来しているそうです。

生長は旺盛で、徒長枝がよく伸びるため、樹形を維持するには剪定が必須です。日当たりがよいと葉の密度が高くなります。厳冬期を除いていつでも刈り込みができますが、新しい枝に花つけるので刈り込みすぎると花が楽しめます。花が目当ての場合は、普段は徒長枝を切る程度とし、花が終わった晩秋 (10～11 月) に刈り込めばよいでしょう。茂りすぎた場合は古い枝を株元から間引きます。株が大きくなりすぎた場合は、冬に株元から枝をすべて切って更新します。

病気や害虫もほとんどつきません。挿木、株分けで増殖できます。